

日時 平成24年9月24日(月)

18時～20時

場所 建築士会館3階

1 開会

2 ワークショップの進め方について

資料1を用いて、進め方の簡単な説明があった。

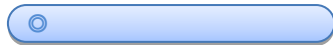
3 グループワーク「景観配慮のための課題と工夫について考えよう」

持ち寄った写真を参照しながら、景観への配慮が見える点や配慮が足りないと思う点について、意見を出し合った。



協議テーマ『景観配慮のための課題と工夫について考えよう』意見のまとめ

(凡例)



景観に配慮された「よい事例」事例



景観への配慮が見られない「悪い事例」

①「自然景観に隣接する場所、またそれらを背景とする場所」

②「海浜近くの場所」

◎ 海辺の自然との繋がりを大切に
にした緑地（緑）を配置する



- 海辺の近く（築港）では、沿道に緑が連なり効果的な景観になっている。
- 緑陰の効果と自然景観との繋がりが生まれてよいと思う。

◎ 水辺の環境をうまく活用する
デザインが大事



- 周りの環境を、うまく活用するデザインが大事。
- 川に隣接する敷地では、川を積極的に活用するデザインをするのがいいのではないかと。水辺の方からも入れるようにするなど。
- 川に沿って遊歩道ある場合は、それをうまく活用する。

◎ 俯瞰する視野にも配慮して、周
りの景観調和を考慮する



- 自然に囲まれた付近で、上から見下ろすことのできる場所では、屋根の色が重要な要素になる。

③「住宅地や集落など生活空間に近接する場所」

▲ 緑は良いけど、維持管理が大変

- 植栽は維持管理が大変。という施主が多い。外構など、コンクリートで固めてしまう。



◎ 緑の縁取りは住環境にゆとりを
生み出す



- 低層住宅の屋根並みは統一感がある。
- セットバックされ、緑があるとゆとりが感じられる。
- 隣接する家の敷地と調和することが重要である。

④「中心市街地やまちなかの場所」

▲ 際立つ外観色彩の建物



- まちなかで際立つ外壁色彩の建物。
- 商売上目立たせたい意向が逆効果。人が入りにくい印象を受ける。
- 「安っぽい」印象を感じさせるデザイン。

◎ 周りの景観と調和のとれた色彩



- 隣接建物との色彩の統一などにより、調和を感じさせる。
- コーポレートカラーなど、目立たせたいものは低層部で表現する。
- にぎわいを創るのは一階だけで表現する。

▲ 建物規模がアンバランス



- 建物の大きさに統一性がない。場所の特性などに応じた大きさの配慮が必要。

▲ 城下周辺の風致との調和



- 洋風の外観意匠は周囲の風致と調和しない。



- 和風意匠は周囲の風致とも調和する。

◎ 効果的な緑の配置の工夫



- 少ない緑でも角地等、効果的に緑を配置すると印象が大きく変わる。



- 角地にシンボリックな緑を配置する。



- セットバックした空間に豊富な緑を配置する。



- 壁面緑化は少ない緑でも効果的。

効果的な緑の使い方

- 通りに緑がないと殺風景でうるおいがない。
- 公共空間（歩道）の緑も景観上重要。



- 建物前面の街路樹を活かして建物の配置や緑の配置を考えるとよい。

過剰な規模の広告物



- 交差点付近に集積する屋外広告物。数が多すぎる。



- 過剰な大きさの広告物。過剰な色彩を感じさせる。



- 歩行者の近く建つ看板にしては大きすぎる。

公共施設のデザイン検討



- 最近建てられた交番。意匠への配慮が感じられない。
- 公共施設としてデザイン性にも配慮した設計発注をすべき。



- 学校の外観色彩が「地域住民」からの意見で彩度の高い色になってしまった。専門家のアドバイスを受けてもらいたい。



- 城をモチーフにしているが違和感がある。意匠も含め建てる位置等に配慮が必要。

4 次回ワークショップの説明

次回は、10月29日（月）午後6時30分から、同じ場所で開催する。今回より30分遅く開始するので、ご注意願いたい。ご参加をお願いします。

以上